

# 平成29年度スジアオノリ養殖概況

牧野賢治

平成28, 29年度の月毎の徳島県漁連共販数量の推移と対前年比を図1に、年度毎の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

平成29年10月1日から種場が解禁となったが、10月12日過ぎから曇りや雨の日が多く、その影響から種場での種付けが不調となった。10月20日、台風21号の来襲に備えるため、養殖施設が撤去された。10月21～22日の台風21号の影響による大雨で川が増水して濁流となった。次の台風22号が徳島県へ来襲することが予想されたので、漁場に養殖施設を設置することができなかった。10月28～29日にかけて台風が接近して、大雨をもたらした。その影響で吉野川河口の養殖漁場が淡水化し、11月中旬まで養殖を再開することができなかった。その後、養殖が不調という情報を受け、現場に行き、ノリ網の節を切り取って当研究課へ持ち帰り顕微鏡観察をした結果、珪藻がスジアオノリ幼芽の上から押さえつけるような付着をしていたことから、付着珪藻がスジアオノリの生育を阻害していたと考えられた。1月下旬に付着珪藻の発生が収まったと漁業者から情報提供があったが、現場水温が10以下になっており、付着珪藻の影響を受けずに発芽したスジアオノリの生長は鈍化していた。

平成29年度の月別の共販実績は、今年度が過去10年で2番目の凶作であった。前述したが、台風の影響と付着珪藻の異常発生が大きな要因と考えられる。今年度は、4月になっても養殖を実施し、3.7トンの収穫があった。(図1)。共販の最終結果は数量28.1トン、金額8.4億円であり、平均単価は、過去最高の29,974円だった(図2)。

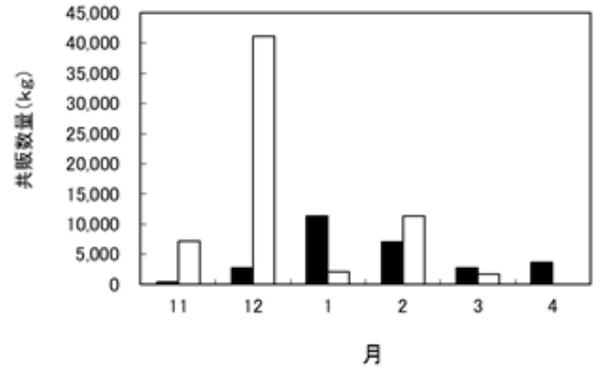


図1. 平成28,29年度における共販数量の経月変化  
■:平成29年度 ; □:平成28年度

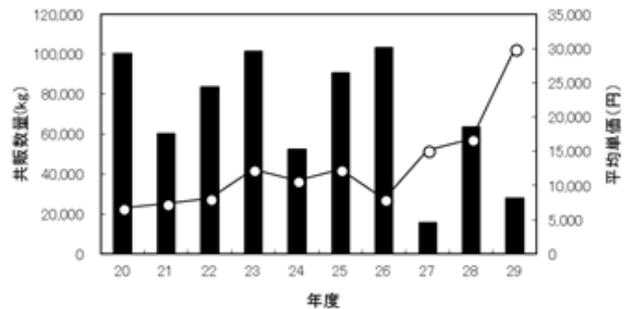


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移  
■:共販数量 ; ○:共販単価